

アートが  
アートで  
ある為に

# アートが アートで ある為に

2015.11.20-11.23

## コンセプト

「トイレを展示の場にすればいいんだ！」

というアイデア1つに、16人の多彩な仲間達が集いました。

この企画は Artocolony の活動の第一弾。

場所に注目し、アート自身を、そしてアートと人との関係を見つめ直したいと考えています。

そこにあるモノ達は全てアートだ、という約束事を与える美術館。  
未だに、人の生活とは少し遠く、入ることを気構えさせる美術館。

トコロなど関係なく、アートは自分で自分をアートと定義できないのか？  
もっと多くの人々が、アートと接点を持てるトコロとは？

今回のトコロはトイレ。

美術館やギャラリーみたいなトコロとは少し違ってアートとは少し  
縁遠いが、何の気兼ねもなく誰もがその空間に立ち入れるトイレ。

16人はトイレに、そして自らに対峙し、どのようなモノを生み出す  
のでしょうか。トイレの為に来た人はどのように突如現れる予期せぬ  
モノを捉えるのでしょうか。そしてモノはアートになれるのでしょうか？

アートの枠が広がり続ける昨今、アートがアートである為に、  
アートがあるトコロとは何か、と問いてみる実験の始まりです。

## 概要

実験名：アートがアートである為に

会期：2015年11月20日(金)～23日(月) 京大学祭(NF)期間中

会場：京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館 共北・共西建物トイレ内

実験時：10:00～18:00 (最終日23日のみ 10:00～21:00)

企画：高木遊 上林悠也

記録撮影：大西日和

HP：<http://artocolony.com>



# 1F

## ②川久保美桜 壊れたトイレの再現 (青/一般向け/催事用)

これは1962年11月22日に壊れたトイレを2015年11月19日に再現したものです。再現するにあたり、当時の写真、関係者の証言、壊れたトイレが与えた影響等を調査しました。しかし、全ての情報が正しいという訳ではなさそうでした。壊れたトイレは存在していたのでしょうか。ではここに再現された壊れたトイレは一体何なのでしょう。

## ①浦田千晶 あの頃の重力

この作品は、廃校になった小学校の教室で先日展示されたものです。最初は鳥や虫に見えるかもしれませんが、魚? 割かれたリンゴの皮? これは作者のための《朝のぼり》です。ある《アイテム》にまつわる作者個人の記憶は、解釈かれ、一度はばらばらになり、再び縫い合わされることで、大空を泳ぐ《朝のぼり》へと形を変えました。言葉では語りきれない感情や



吉田南総合館

関係、思い出などは、人と共有しづらいこともあります。でも、その一つ一つを丁寧に見つめてみると、新しい形で発見できるものが、きっとあるはずなんです。今回はこの場所で偶然出会った皆さんの目に、《朝のぼり》はどんな風に映るのでしょうか。

## ③加納朋香 In This Forest

午前10時の森。飽和してしまいうまくない木切れの心地よい涼しさ。ふかふかの地面。ひんやりしたにおいがある。この森はどこまで続いているのだろうか。少し歩けば抜け出てしまいうまくない森もある。森を抜ける必要があるのか?

夕方、5時の森。そろそろ、日が暮れてきている。明日のことなんて気にするのは、やめようと思った。気のせいかな、木々のあいだに気配がある。それは、何ものかが見守ってくれているんだ……そう考えればいいらしいと、誰かが言っていた。

## ④大塚亮真 ゴリラに見つめられなら

ばく、ごりらだあ〜いすき!♡

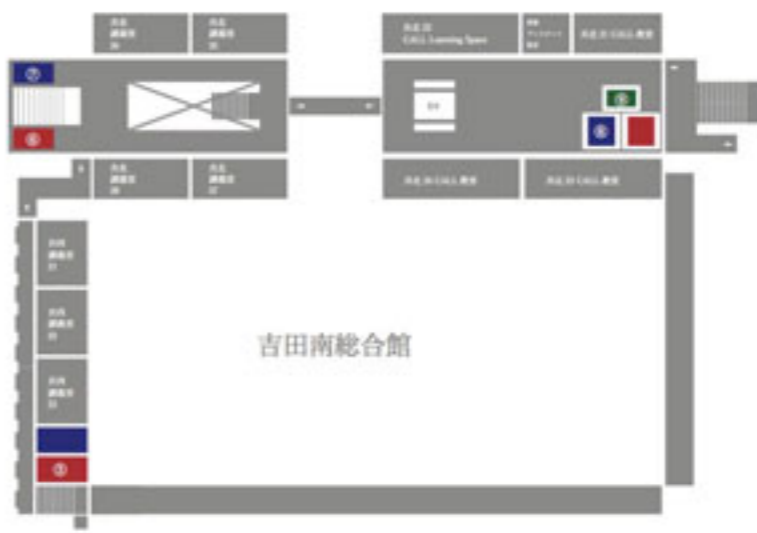
# 2F

## ⑤武藤桃 線と線の隙間を歩く

空と雲の境目に沿って歩いてみると、東西南北が分からなくなりました。わたしとわたし以外の誰かとの境界線に沿って歩いてみると、境目が分からなくなりました。分からないことも、たまには分からないままでいい。境目も境目のままでいい。この作品は線と線の隙間の歩き方における、一つの提案です。

## ⑥岡部耀 女についてのほんの 少しの断章

「おいしいものを食べているときが至福の時間」。そんな自伝を女の子から聞くたびに不健全だなあと感ずくはいた。とある作家が女は道以外に子宮を中心とした円でのことを考えるといったが、現代女性はこの子宮中心の思考を嫌悪しすぎている気がする。ある映画で「女なんて肥れめからうまれてきたのよ」などと言っていた女が



吉田南総合館

だが、そんな女性が増えるべきではないかと私はつねづね考えている。もしかしら、女性蔑視と言われるかもしれないが、口喧嘩で相手の女性に冷静になられるより発狂してもらった方が男にとってまじなのは間違いないのだ。

## ⑦受付

## ⑧本間はる華 toilet

トイレ空間には美が存在するのではないのでしょうか。

## ⑦宮澤慧智 芸術批判の為の試案1

創造行為を排演と結びつける。あるいは芸術作品を排演物と結びつける向きがある。それが芸術家のうそぶきであれ、反知性主義的な反論であれ、それは芸術が自明の価値を持つという前提の周辺における議論であるだろう。本作品は実際に排演と芸術を並置するという実験的な手法を切り口にして、その前提に疑問を投げかけるものである。

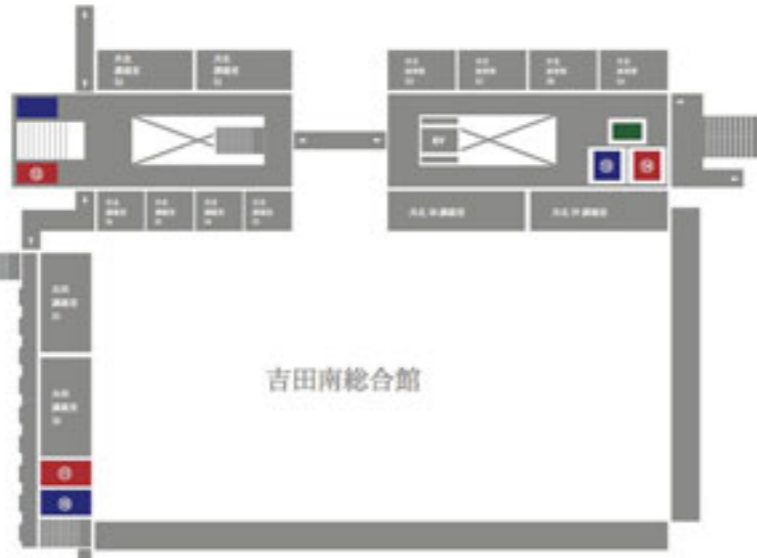
# 3F

## ⑨神野友里 箱庭

私は今回「建物の中なのに自然の中」というコンセプトで作品を作りました。トイレは街の中で多くの知らない人が使う場所ですが、個人が素になれる、自然に近い状態になれる場所だとも思います。しかし、トイレ自体は全く自然のものではありません。大概トイレは便紙といった人工物で覆われています。今回は、そんな人工物のトイレを少しでも自然の状態にしてみたいと考えました。

## ⑩稲田咲 総天然色怪懐古房

八百万の色彩に染れた今日、トイレのように白色に覆われた場所はある意味異質な光景。異空間として鑑みられるのではないのでしょうか。また、個室内は更にその程度が増すように感じます。一先ずは外部の喧騒を忘れ、異空間でごゆるりとお過ごしください。



吉田南総合館

⑩西田麻惟  
無防備  
裸性とはセクシャリティ以上に無防備性に関連をもつ。しかし我々が思うそれと少なからずかけ離れているために官能と見誤ってしまい時として不体儀とさえ捉えられる。アガン

ベン云く「人間は真に裸になることはできない」とすれば衣服を取り去った彼女たちは何であるのか。玉ねぎの皮を剥くように一枚一枚取り去った彼女たちが剥き出しになっているものは何なのか。トイレという不可視化された生理的

空間は暴力的なまでの無防備さと掛け合いのようになたされていくのか検証していくものとした。

## ⑪倉田康平 W.C. (Wordless Cries)

我々の日常の傍らにありながらも「美」から無視され不可視化されるトイレを無言の叫びがこだまする場にした。何らかのメッセージを強く発しながらも鑑賞者を遠ざけ、理解を拒むような作品はどうであろうか。例えば反転したQRコードは一掃網では情報を差し出さないし、三輪車は排演物を解放させる場にあるまじき異物、緊張感を与えるであろう。鑑賞者の神経を時に暴力的に刺激しつつ、突き放すことで見たい、知りたいたいという欲望を惹き起こせ。意識を作品へ向かわせる。と同時にそのもののビジュアルよりもむしろその背後で作品を構成づけたいとせよという理念に価値を置かれ始めたアートが真に「日常」と和解できるのかという問題提起も含んでいる。

# 4F

## ⑫GEN feat yoshihiro 人類は便器の前に座すべし ~トイレの覚醒~

日本という文明社会において、トイレがあることの有り難みを忘れてはいないだろうか。綺麗な設備に、快適な照明。最初からそうだった訳ではない。今回は仏教の世界観を通じて、生物学的な人間存在を客観的に俯瞰して見つめ直す機会になれば幸いです。

普段も、使ったあとは感謝して、綺麗にして出てきましょう☆(ゴミを拾って、三角折り(ファイアーホールドという)をする部、キミもジョイナス!)



吉田南総合館

## ⑬君嶋紗帆 タッチミー クレイミー

コンセプト/触れているもの(粘土)の様子を窺いながら形を作っていました。行為がもたらす現れ、それが自らの行為に影響していく、相互関係の中でできた形は私が粘土に、粘土が私に触れた痕跡です。

## ⑭柚璃波 Clone, El Ángel de Mar

水に対するさらさらとした想いを、たくさん詰め込みました。浴した方にこのさらさらを楽しんでもらえたら幸いです。